

暮ら  
らしの  
道具

# はじめに

人間は様々な時代・地域によって多様な生活を営んでおり、それぞれの持つ文化は大きく異なる場合も多くあります。

しかし、食べ物を作る、服を着るなど基本的な営みはどこでも共通して存在しています。

本企画展では、各時代・地域にて同じ用途で使われていたと考えられる資料を、刃物・容器・服飾の3種類に分けてご紹介します。

それぞれの資料の類似点・相違点などを是非観察してみてください。

# 刃物



石器

旧石器時代  
フランス(アブヴィーユ)



石器

旧石器時代  
フランス(モンティエル)

# 刃物



## 石器

旧石器時代  
フランス(モンティエル)



## 実用石斧

20世紀  
パプアニューギニア(高山地帯)

# 刃物



**骨製短剣**

20世紀  
パプアニューギニア  
(セピック川流域)



**マキリ**

20世紀  
アイヌ民族

# 刃物



腰刀

20世紀  
タイ（モン族）



のこぎり

20世紀

# 解説

- これらは、ものを切る道具について比較したものです。
- 石器は食材を切る、皮をなめすなどの日常的なことに加え、狩猟にも用いられました。
- 骨製短剣は、パプアニューギニアの部族の戦士たちが用いていました。
- アイヌ民族のマキリは、狩猟や漁の際に用いられました。

# 容器



ヒョウタン製水入れ

20世紀  
タイ（モン族）



水筒

昭和  
重松家



# 解説

- この2つは、水を入れるものをそれぞれ比較した資料です。
- 左側のヒョウタンでできた水入れはヒョウタンから果肉の部分を取り除き、乾燥させたものを水筒として利用していました。
- 一方、右側の重松家の水筒は金属を加工して作られています。ヒョウタンの水入れよりも強度があります。

# 容器



**須恵器杯**

古墳時代  
比野狭山古墳群



**木製皿**

20世紀  
パプアニューギニア(セピック河流域)

# 容器



鉢

昭和  
寺澤家

# 解説

- これらは、同じような形の器について比較したものです。
- 須恵器杯は古墳時代に作成された器です。大陸からの渡来人から伝来した技術を用いて作成されました。
- 木製皿は、パプアニューギニアで使用されていたものです。大きな皿ですが、木製なので軽いです。
- 重松家の鉢は、昭和時代に製作された器です。鮮やかな装飾が施されているのが特徴です。

# 容器



土器

縄文時代  
千葉県(市川市)



炊飯器

昭和  
重松家

# 解説

- この2つは、食べ物を調理する道具について比較した資料です。
- この土器は縄文時代に作成されたもので、食べ物の煮炊きや貯蔵のために使用された道具です。
- 炊飯器は電気によって米を炊くことができる機械です。スイッチの操作によって、細かな設定が可能です。

# 服飾



櫛

20世紀  
パプアニューギニア(高山地帯)



櫛

昭和  
水野家



骨製かんざし

20世紀  
パプアニューギニア(セピック川流域)

# 解説

- これらは髪の毛を梳かす櫛や、髪を飾るかんざしです。
- 時代や地域によって形や素材、装飾が異なるということが分かります。
- しかし、頭髪を綺麗に見せたいという美意識は共通しているように思えます。



# 服飾



スカート

20世紀  
タイ(モン族)



女性用腰みの

20世紀  
パプアニューギニア(高山地帯)

# 解説

- この2つは、女性用のボトムスをそれぞれ比較したものです。
- 左側のスカートは、儀礼の際に履かれたものです。
- 右側の腰みのは、植物から作られています。

# 服飾



網み袋

20世紀  
パプアニューギニア(高山地帯)



革かばん

昭和  
柴山家

# 服飾



かご

現代  
不明



かご

昭和  
重松家

# 解説

- これらの資料は、日用品の中でも「物を運ぶ」という用途に焦点を当てたものを並べています。
- 素材やその加工方法に注目すると、場所や年代によって特徴がある事がわかります。4つの資料の中で、昭和の革かばんは特に異質です。中に入れて運んでいたものについても、他の3つとは性質が異なっていたことが推測できます。
- 一方で、同じ昭和日本の道具であるかごには、見た目や制作方法にパプアニューギニアの網み袋と共通点が見出せます。